

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)研究開発棟	階数	地上5F
建設地	神奈川県海老名市下今泉810番地	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条地域	平均居住人員	200 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	学校・ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2015年8月20日
敷地面積	8,000 m ²	作成者	リコクリエイティブサービス株式会社
建築面積	2,990 m ²	確認日	2015年8月25日
延床面積	12,600 m ²	確認者	リコクリエイティブサービス株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 97%
 ③上記+②以外の 97%
 ④上記+ 97%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 研究施設のため、外部に多くの実験ダクトや配管が出てきてしまうため、外装に目隠しパネルを設置した。その結果、景観に配慮するだけでなく、室内の日射抑制にもつながる計画とした。		その他 特になし。
Q1 室内環境 開口部遮音性能T-2、断熱材の採用、ブラインドの設置などにより外壁負荷を抑制している。	Q2 サービス性能 矩形でスペースにゆとりのある実験室やPS、EPSを共用部から点検可能にすることで維持管理や将来の更新に柔軟に対応できる計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 既存の神社とその周辺の緑地については手を加えずにそのまま保存することで、敷地の歴史を継承している。
LR1 エネルギー 建物で消費されるエネルギー量を年間を通じての把握を可能とし、将来にわたって効率的に運用が可能な計画とした。	LR2 資源・マテリアル エコマーク商品の採用や、有害物質を含まない材料の採用を行っている。	LR3 敷地外環境 騒音抑制に努め、また屋外広告の設置はしないことで周辺への環境に配慮している。また、実験室の窓面に対して目隠しパネルを設置することで、グレアを抑制している。既存緑地を保全し地表面被覆材だけでなく風の通り道にも配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される